現場レポート

シドニー事務所

# 日豪和解を象徴する地がつなぐ絆
## ～カウラ・ブレイクアウト 80 周年事業とカウラ桜まつりへの参加～

（一財）自治体国際化協会シドニー事務所　所長補佐　西村　雅裕（東京都派遣）

### カウラ・ブレイクアウト 80 周年事業

シドニーから道路距離で約 320km 西に位置し、第二次世界大戦中には連合軍の捕虜収容所が置かれていた人口１万人ほどのニューサウスウェールズ（NSW）州カウラ市は、世界最大規模の捕虜集団脱走事件が発生したことで知られています。1944 年８月５日未明、日本人捕虜の集団脱走事件（カウラ・ブレイクアウト）が発生し、オーストラリア人の収容所衛兵４人を含む 235 人が犠牲となりました。戦後長きにわたって、カウラ市を中心に日本との和解や日豪の戦争犠牲者の慰霊の取り組みが行われてきたことから、カウラ市は戦後の日豪和解を象徴する地と呼ばれています。

カウラ・ブレイクアウト発生から 80 周年を迎えた 2024 年８月４日には、アンソニー・アルバニージー豪州連邦首相が献花に訪れました。現職の首相がカウラ市を訪問するのは、1986 年以来、実に 38 年ぶりとのことで、現地報道でも大きく取り上げられました。首相は、日豪両国の犠牲者を追悼するとともに、カウラ市のコミュニティーが長年にわたって戦争犠牲者の墓地を守り続け、両国の友情を育んできたことに敬意を表しました。

クレアシドニー事務所は、同日午後から翌日午前中にかけて開催された 80 周年の節目を記念する一連の行事に参加しました。

※カウラ・ブレイクアウトの詳細や 75 周年事業の際の様子はこちら

**＜捕虜収容所跡地での追悼行事の様子＞**

午後３時半から９時半まで立て続けに行われた世界平和の鐘セレモニーやランタンパレードをはじめとする４日の行事に参加した私たちは、引き続き５日未明に行われた捕虜収容所跡地での追悼行事に参加しました。NSW 州の中でも海から遠く離れた内陸に位置するカウラ市は、内陸部特有の気候の影響で昼夜の寒暖差が大きく、特に深夜になると最低気温が氷点下近くまで下がることもあります。当日も、マフラーや手袋などの防寒具が欠かせない寒さで、追悼行事の会場となった捕虜収容所跡地には、大木の丸太を惜しげもなく使った大規模な焚き火が用意されており、開始時刻まで多くの参加者が暖を取っていました。

追悼行事が始まった午前２時頃には、深夜にもかかわらず、地元の住民や日本からの訪問者をはじめ、日豪両国から 100 人程度の参加者が集まりました。行事の終盤には、集団脱走の合図となったラッパの音とともに火が放たれたという史実が再現され、捕虜収容所跡地の広い範囲が炎に包まれました。夜空に立ち上る煙や、激しく燃え上がる炎が辺りを照らす様子を実際に目の当たりにすると、当時の脱走者たちが見た光景が想像され、非常に考えさせられるものがありました。

集団脱走が発生した時刻に合わせて開催された追悼行事の様子

**＜豪州・日本人戦没者墓地での献花式＞**

同日午前９時 30 分から開催された献花式では、豪州人戦没者墓地において、マーガレット・ビーズリー NSW 州総督、ルース・フェイガンカウラ市長、穂坂泰外務大臣政務官をはじめとする日豪関係者による献花が執り行われました。その後、隣接する日本人戦没者墓地に移動

し、同様の献花が行われました。また、神職による祝詞が奏上されたほか、奈良・西大寺の辻村泰範執事長による読経や同執事長を団長とする奈良県訪問団による合唱が行われ、日本人戦没者への慰霊が厳かに行われました。

一連の行事には、カウラ市と縁の深い福岡県からは服部誠太郎知事や香原勝司県議会議長をはじめとする訪問団が、カウラ市の平和友好交流都市である新潟県上越市からは小田基史副市長ら自治体関係者が出席したほか、宮城県白石市の中学生、東京の成蹊高校の生徒の姿もありました。日豪両国の若い世代も多く参加しており、この歴史的な出来事が今なお脈々と引き継がれていることを実感しました。

奈良・西大寺の辻村泰範執事長による読経の様子

高台から撮影したカウラ日本庭園

## カウラ日本庭園での桜まつり

厳かな雰囲気で実施されたカウラ・ブレイクアウト80周年事業とは対照的に、毎年、カウラに桜が咲く9月下旬には、日本文化の紹介と日本と豪州の友好親善を目的に、南半球最大の日本庭園であるカウラ日本庭園でカウラ桜まつりが開催されています。

クレアシドニー事務所は、2024年9月28日に開催された桜まつりへの招待を受け、80周年事業に参加した自治体をはじめ、日本各地の桜の名所などをPRしました。シドニーはもちろん、カウラ市から道路距離で約200km南に位置する首都キャンベラをはじめとする各地から、2,500人を超える来場者が訪れました。当事務所のブースも、近々訪日を予定している来場者をはじめ、多くの人々で賑わいました。大都市から遠いにもかかわらずこのイベントのために訪れた来場者の日本に対する興味は大変強く、「何度も訪日しており聞いたことがない場所に行ってみたい」「訪日外国人が少ないとっておきの場所はないか」といった質問を頻繁にいただきました。私たちも持ちうる知識を総動員し、来訪者の方に喜んでもらえるような提案をし、微力ながら彼らにとっての日豪の懸け橋となることができました。

日本の自治体をPRするクレアシドニー事務所職員

来訪者の中には、「この庭園は本物の日本を豪州で感じられる数少ない場所だから、遠くても毎年桜まつりに来ている」という声もあり、この庭園自体が日豪の融和に一役買っていることを実感しました。ブースには、日豪の友好親善関係の増進に多大な貢献をしたことで2019年度に日本の外務大臣表彰を受賞したビル・ウェスト前カウラ市長も立ち寄り、私たちの継続的な活動に対し、感謝の意が述べられました。

## 歴史を超えて紡がれる日豪の絆

カウラ・ブレイクアウト80周年事業とカウラ桜まつりへの参加を通じ、日豪両国の絆を再確認することができました。また、過去の出来事を振り返る一方で、未来へ向けてお互いの絆をさらに深め、平和と友好の精神を次世代へ継承していくことの大切さを改めて実感しました。両国の良好な関係が今後も継続するよう、クレアシドニー事務所としても引き続き尽力していきます。